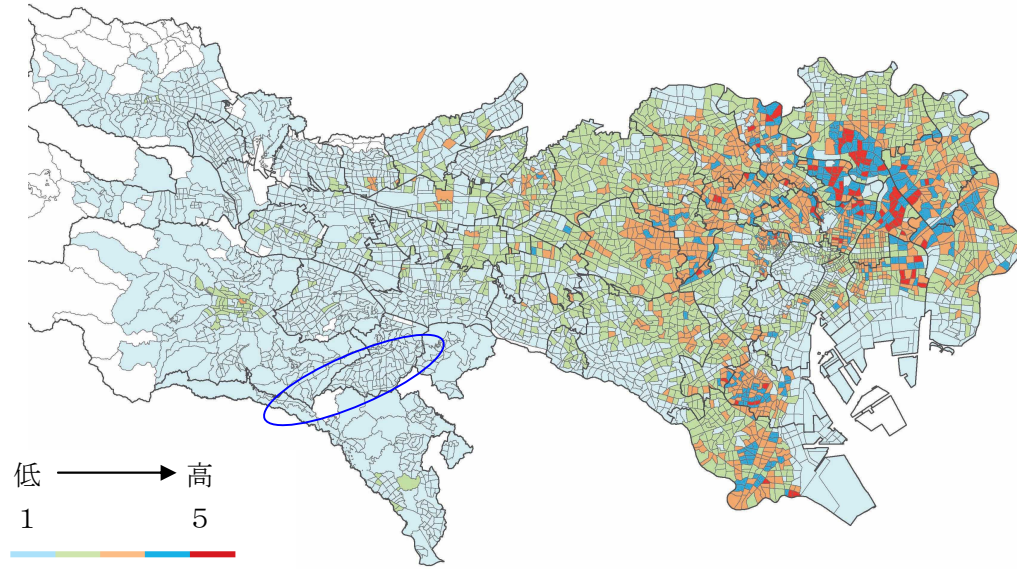


多摩ニュータウンの安心安全について

◇ 多摩ニュータウンの地域危険度

東京都の「地震に関する地域危険度測定調査（第6回）（平成20年2月）」によれば、多摩ニュータウン区域の地域危険度は建物倒壊危険度、火災危険度、総合危険度とも、最低ランクの「1」となっている。



地域危険度とは

「建物倒壊の危険性」「火災発生による炎症の危険性」とその両者を併せた「総合危険度」について、町丁目ごとに5段階で相対評価。

建物構造、建築年代、階数などの種別ごとの棟数、建物用途ごとの火気器具や電熱器具の使用状況、道路や公園の整備状況などのデータをもとに、科学的に地震による危険性を測定。

◇ 多摩ニュータウンの液状化危険度

多摩ニュータウン区域は、液状化がほとんど発生しない地域とされている。



○ 土木技術支援人材育成センター「液状化予測図」

・昭和62年に作成した「東京低地の液状化予測図」と、平成8年度の研究成果である「多摩地域の液状化予測」を一本化するともに、東京都港湾局の「東京港埋立地盤の液状化予測」（平成3年度）を合本したもの。

◇ 3. 11 東北地方太平洋沖地震の被害状況

〈多摩市の状況〉

・多摩市内では、12件の応急・復旧活動が記録されている。そのうち、諏訪・永山地区内では、永山5丁目で民家のブロック塀が道路側に傾いた事例のみである。その他、多摩センター地区等では、橋梁の一部破損（階段と本体との接合部破損、高欄破損等）（写真1）が3件、自転車歩行者専用道路のタイル破損（写真2）などである。

〈写真1：落合2-28地先 プリリア横の橋〉

〈写真2：鶴牧1-23地先 朝日生命前自転車歩行者専用道路〉



〈八王子市の状況〉

・多摩ニュータウンは歩車分離を実現するため跨道橋が多く域内に整備されている。今回の地震との直接的な関連は不明であるが、これらの橋りょうについては、不等沈下や振動周期が異なる橋桁と階段等の結合部分の劣化など築造以来の経年劣化が生じてきている。

〈鹿島歩道橋〉



◇ 多摩ニュータウンと水害

・多摩ニュータウン区域内には、多摩川水系の大栗川、乞田川、大田川及び三沢川の4河川がある。これらの河川は、ニュータウン開発以前は、たびたび氾濫していたが、現在、三沢川を除き時間雨量50ミリ対応の改修を終えており、過去10年において溢水による浸水は生じていない。